

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京純心大学
設置者名	学校法人東京純心女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
現代文化学部	こども文化学科	夜・通信			14	14	13	
		夜・通信						
看護学部	看護学科	夜・通信			21	21	13	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/n/141114085619.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/n/141114085619.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京純心大学
設置者名	学校法人東京純心女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>ホームページ（事業報告書の中で「&lt;役員等の状況&gt;」で開示）  <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/col//summary/plan_report/H29_TokyoJunshinReport2017.pdf">http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/col//summary/plan_report/H29_TokyoJunshinReport2017.pdf</a></p>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	宗教法人代表役員 (前職)	平成29年7月 ~令和3年7月	経営全般
常勤	他学校法人副理事長 (前職)	平成29年4月 ~※	大学運営全般
非常勤	宗教法人代表役員 (現任)	平成29年7月 ~令和3年7月	当学校法人のファウンダーである法人の代表者であることから、当学校法人のミッション等に多大な影響を与えております。ファウンダーの視点から中長期的な学校法人の価値向上に尽力することを期待しています。
非常勤	他学校法人理事長（現任）	平成29年4月 ~※	長年にわたり他学校法人の理事長を務めていることから、経営全般に関し高度な知見や豊富な経験を有しています。また、提携先である大学の理事長であり、同大学との適切な協業及び関係強化に資することが当学校法人にとって最適と判断しています。
非常勤	弁護士（現任）	平成29年7月 ~令和3年7月	弁護士としての幅広い

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
			知識や経験を有しており、法律の専門家として当学校法人の経営の透明性・公平性を高めるために助言等をいただくことにより、理事会の監督機能を高めることを期待しています。
非常勤	公益財団法人理事長（現任）	平成 29 年 7 月 ～令和 3 年 7 月	長年にわたり大学の認証評価を行う機関の理事を務めており、大学全般の運営、特に教学面に精通しています。当学校法人の教学面を更に強化するため、当該理事の知識や経験を役立てることが最適と判断しています。
<p>（備考）</p> <p>※学長、校長ないし評議員の地位を喪失した時に理事の地位も喪失する。</p>			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京純心大学
設置者名	学校法人東京純心女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>																								
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成については、授業担当教員に向けて「2019年度シラバス作成に関する注意事項」を作成し、前年度1月～2月の約2ヶ月の期間で作成完了している。科目担当者により完成したシラバスは、学内学務委員会委員により、注意事項に沿ったシラバスであるか否か第三者による確認作業を行い、新年度4月にPDFデータにて公表している。</p> <p>配置された授業科目のシラバスは、授業の概要、授業の到達目標、授業計画、授業外学修(予習・復習・課題等)、成績評価等明示している。</p> <p>シラバスは、学生に授業内容・授業計画ほか、必要な学習量、予習、復習を事前に認識させているほか、課題提出後のフィードバック方法についても明確にし、シラバスの利用促進を促している。</p>																								
授業計画書の公表方法	<p>・大学ホームページ「在学生の方」  <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/n/141114085619.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/n/141114085619.html</a></p>																							
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																								
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位認定については、学則第23条から第29条に明確に定め、ホームページ及び学生便覧に公表し、適切に運用している。</p> <p>成績評価は、「秀・優・良・可・不可」の評語によって表している(一部「合」「否」)。評点は以下の表となっている。</p> <table border="1" data-bbox="386 1556 901 1832"> <thead> <tr> <th>評点</th> <th>評語</th> <th>合否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90</td> <td>秀</td> <td rowspan="4">合格</td> </tr> <tr> <td>89～80</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>79～70</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>69～60</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>59以下</td> <td>不可</td> <td rowspan="2">不合格</td> </tr> <tr> <td>無評価</td> <td>失格</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="975 1556 1225 1680"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>合否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td>否</td> <td>不合格</td> </tr> </tbody> </table>		評点	評語	合否	100～90	秀	合格	89～80	優	79～70	良	69～60	可	59以下	不可	不合格	無評価	失格	評語	合否	合	合格	否	不合格
評点	評語	合否																						
100～90	秀	合格																						
89～80	優																							
79～70	良																							
69～60	可																							
59以下	不可	不合格																						
無評価	失格																							
評語	合否																							
合	合格																							
否	不合格																							

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>両学科共に、学生への履修支援、奨学金・特待生制度の選考、退学勧告等に役立つ指標としている。その他、こども文化学科においては、保育実習の履修の選考基準にも活用している。</p> <p>また、各学期初めに実施しているガイダンス時の履修指導やアドバイザーによる個別相談、学修指導等の機会に活用している。</p> <p>成績の状況が数値化され、学生は自己の学修成果や到達度を把握でき、主体的な履修計画や学習意欲の向上につなげている。</p> <p>公表方法については、各学期終了後、学生及び保護者へ配付する成績表にGPAを明記し、単位修得状況とともに学修の水準を学生・保護者が確認できるようにしている。</p> <p>GPAの算出方法は以下のとおりである。</p>	
$\text{GPA(Grade Point Average)} = \frac{(\text{【秀】の修得単位数} \times 4) + (\text{【優】の修得単位数} \times 3) + (\text{【良】の修得単位数} \times 2) + (\text{【可】の修得単位数} \times 1)}{\text{履修登録した単位数 (不合格になった科目含む)}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学ホームページ 情報公開「2018年度自己点検・評価報告書」31ページ  <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/pdf/2018%20zikotenkenhyokasyo.pdf">http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/pdf/2018%20zikotenkenhyokasyo.pdf</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、各学科にもディプロマ・ポリシーを定め、学生便覧及びホームページにて公表している。</p> <p>卒業・修了認定等は、修業年限を満たし、各学科で定められている所定の卒業要件単位（必修科目等を含む）に掲げた科目を履修し、現代文化学部では合計124単位以上、看護学部では合計126単位以上を修得しなければならないと定め、厳正に適用している。</p> <p>単位認定及び卒業・修了認定においては、各学部において開催される成績会議、学内委員会学務委員会による卒業認定会議、教授会の審議を経て厳正な認定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度 学生便覧（紙媒体）</li> <li>・大学ホームページ「こども文化学科の教育内容」  <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep02/idea.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep02/idea.html</a></li> </ul>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門

学校名	東京純心大学
設置者名	学校法人東京純心女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ ※2
収支計算書又は損益計算書	ホームページ ※2
財産目録	ホームページ ※2
事業報告書	ホームページ ※1
監事による監査報告(書)	ホームページ ※2

※1 : [http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/plan\\_report.html](http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/plan_report.html)

※2 : [http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/financial\\_position.html](http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/financial_position.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画 対象年度:平成30年度※)
公表方法:ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/col//summary/plan_report/H30_TokyoJunshinPlan2018.pdf">http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/col//summary/plan_report/H30_TokyoJunshinPlan2018.pdf</a>
中長期計画(名称:中期事業計画 対象年度:自 令和元年度 至 令和5年度)
公表方法:(公表を検討中)

※令和元年度事業計画は7月中にHPに掲示予定。

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/pdf/2018%20zikotenkenhyokasyo.pdf">http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/pdf/2018%20zikotenkenhyokasyo.pdf</a>
--

(2) 認証評価の結果

公表方法:ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/col/univ/col/jihee/img/jihee_report_2016.pdf">http://www.t-junshin.ac.jp/content/files/univ/col/univ/col/jihee/img/jihee_report_2016.pdf</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

② 学部等名 現代文化学部こども文化学科
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ)
(概要) 現代文化学部こども文化学科は、「こども・からだ・こころ・あそび」にかかわる専門的事項、技能・表現の修得をとおして、高度な専門性、実践力を備えた人材の育成を教育目的としています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ)
(概要) 本学の建学の精神と基本理念に基づき「愛に根ざした真の知恵」を身につけた国際社会、地域社会のよき担い手を育成します。 こども文化学科の教育課程を履修して所定の単位を修め、下記の能力を備えた者に卒業を認定し、学士(こども文化学)の学位を授与します。 1. 「こども・からだ・こころ・あそび」の四つのキーワードからのアプローチを学修し、現代社会の中で主体的に判断し表現できる資質を備える。 2. こども文化の研究を通して研鑽した豊かな感性と人格の陶冶をもって、世界の平和のために協働できる。 3. こども文化全般への広い視野と深い認識をもち、保育・教育に関する豊かな専門的知識と技能を習得し、こどもの「育ち」に資することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ)
(概要) 建学の精神と基本理念を踏まえ、人間発達と人間社会の原点である<こども>とこどもをとりまく文化全般である<こども文化>を探求し、こどもとこどもの心を持ったすべての人が生きる現代社会に貢献できるよう、「こども・からだ・こころ・あそび」の四つのキーワードを基盤に教育課程を編成しています。 1. 感性教育の伝統を基に<表現系科目>を重視する。 ——ピアノ表現・リトミック・造形・絵画表現・言語表現(絵本・読み聞かせ) 2. 人間教育の伝統を基にした<実践型科目>により主体的な学修を重視する。 ——野外文化活動、言語文化海外実習、リベラルアーツ実習 3. 現代社会に貢献できる人材育成のために<資格課程>を備える。 ——保育士課程、幼稚園教諭課程
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: ホームページ)
(概要) 現代文化学部こども文化学科では、建学の精神と基本理念を理解し、人間発達と人間社会の原点である<こども>とこどもをとりまく文化全般である<こども文化>を探求しようとする人、保育・教育に関する専門的な知識と技能を習得して地域社会で生かそうとする人、具体的には、下記の適性、能力等を有する人を受け入れます。 1. あらゆるものごとに対して真摯に向き合い、他者とのコミュニケーションにおいて誠実な人。そのための基礎的な日本語力と文章表現能力を身につけている人。 2. 心身ともに健康で、奉仕の心とそれを実現する体力を持ち、協働・参画・実践する人。自己研鑽にたゆまぬ努力をする人。 3. こどものこころやあそびに共感し、それらを探求することを通して専門的な知識と技能を身に付けようとする人。

学部等名 看護学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度学生便覧（紙媒体）</li> <li>・東京純心大学 2020 大学案内（紙媒体）</li> <li>・大学ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep07/department.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep07/department.html</a></li> </ul>
<p>（概要）</p> <p>看護学部看護学科は、生命を持つものはかけがえのない存在であると認識し、他者を思いやる心を持つ看護専門職として社会に貢献でき、生涯を通して自己の可能性に挑戦し続けられる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：2019年度学生便覧（紙媒体））</p> <p>（概要）</p> <p>本学では、大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、各学科にもディプロマ・ポリシーを定め、学生便覧及びホームページにて公表している。</p> <p>卒業・修了認定等は、修業年限を満たし、各学科で定められている所定の卒業要件単位（必修科目等を含む）に掲げた科目を履修し、看護学部では合計 126 単位以上を修得しなければならないと定め、厳正に適用している。</p> <p>単位認定及び卒業・修了認定においては、各学部において開催される成績会議、学内委員会学務委員会による卒業認定会議、教授会の審議を経て厳正な認定を行っている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度学生便覧（紙媒体）</li> <li>・ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/curriculum.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/curriculum.html</a></li> </ul>
<p>（概要）</p> <p>本学の教育課程は、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、ひとり人間としての成長を支える「基礎」科目群と専門分野の知識・技術を習得する「専門」科目群とにより編成している。「専門」の科目群は「看護の基礎」「看護の実践」「看護の発展」の3つの科目群から構成されており、学年進行に伴い基礎から応用へと段階的に科目を配置している。</p> <p>また、4年間を通し学内で学んだ教養と専門の基礎知識、看護技術をもとに連携医療機関や地域の福祉施設等で学修の進度に適応した実習を実践している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度学生募集要項（紙媒体）</li> <li>・大学ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep07/department.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep07/department.html</a></li> </ul>
<p>（概要）</p> <p>本学の建学の精神と教育理念に共感し、科学的思考力及び課題解決能力を持つ人物でさらに次の適性、能力を有する人物を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間及び健康への支援に関心が高い人</li> <li>2. 他の人と協力して物事に取り組むことができる人</li> </ol>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：学生便覧(2019年度) P5</p> <p>ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/H30_001.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/H30_001.html</a></p> <p>ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/H30_003.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/summary/H30_003.html</a></p>
---

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
現代文化学部	—	7人	3人	3人	1人	—人	14人
看護学部	—	6人	3人	9人	3人	3人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		51人					53人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/staff/">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/staff/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
八王子大学コンソーシアム研修参加、ハラスメント防止研修の実施、シラバス研修の実施、不正防止研修等の実施							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代文化学部	60人	20人	33.3%	240人	112人	46.6%	—人	0人
看護学部	60人	62人	103.3%	240人	224人	93.3%	—人	0人
合計	120人	82人	68.3%	480人	336人	70.0%	—人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代文化学部	41人 (100%)	1人 (2.4%)	35人 (85.4%)	5人 (12.2%)
看護学部	46人 (100%)	1人 (2.2%)	42人 (91.3%)	3人 (6.5%)
合計	87人 (100%)	2人 (2.3%)	77人 (88.5%)	8人 (9.2%)
(主な進学先・就職先) 聖マリアンナ医科大学病院、公立小学校、幼稚園、保育所				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
現代文化学部	51人 (100%)	41人 (80.4%)	3人 (5.9%)	7人 (13.7%)	0人 (0%)
看護学部	54人 (100%)	46人 (85.2%)	3人 (5.6%)	5人 (9.3%)	0人 (0%)
合計	105人 (100%)	87人 (82.9%)	6人 (5.7%)	12人 (11.4%)	0人 (0%)
(備考) 進路変更及び一身上の都合による。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業内容・授業計画ほか、必要な学習量、予習、復習、課題提出後のフィードバック方法等シラバスに明示している。
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 単位認定については、学則第23条から第29条に明確に定め、ホームページ及び学生便覧に公表し、適切に運用している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代文化学部	こども文化学科	124 単位	④・無	年間 48 単位
		単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	126 単位	④・無	48 単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ 1)校地、校舎等の施設及び設備 <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/campus-map.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/col/campus-map.html</a> 2)学生の教育研究環境 <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/event.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/event.html</a> <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/handbook.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cur/handbook.html</a>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
現代文化	こども文化	780,000円	150,000円	310,000円	教育充実費、実技実習費
		円	円	円	
看護	看護	1,100,000円	150,000円	530,000円	教育充実費、実技実習費
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>学生の修学に係る支援（福利厚生・学生相談・経済的支援等）については、全学的に学生生活委員会が所管し、事務局においては学務課（職員5人、非常勤1人）を主担当として業務を行っている。学生生活委員会は月1回の開催を定例とし、必要に応じて臨時委員会を開催し臨機応変に学生支援に関する事案について審議を行い、学生のニーズに対応している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>学生の社会的・職業的自立に関する指導のために組織されている学生生活委員会及びキャリアセンターでは、各学科の教員や外部機関と連携して各種ガイダンスや対策講座を開催し、社会的・職業的自立に向けた学生の活動をサポートしている。</p> <p>現代文化学部の教育課程内の支援としては、1年次における必修科目として「現代文化セミナー」を開講しており、基礎的な「学びの態度・方法」や「生活・マナー」など、高校生から大学生へのスムーズな移行を図るための多彩なプログラムを準備し、1年次よりキャリアプランを考えさせる機会を提供しているほか、2年次以上については更に就職対策に目的を限定した選択科目として、「キャリアセミナー」を開催している。</p> <p>また看護学部生への支援として、看護師国家試験対策及び看護系就職ガイダンスを定期的を実施し、一人一人の進路選択について丁寧に対応している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>学生の健康の保持・増進を目的に、健康支援に関する専門的業務を行うため、健康サポートセンターを設置し、応急措置及び救護支援の他、定期健康診断、学内の環境衛生改善及び感染症予防対策等を行っている。また、同センターは保健室機能とカウンセリング・ルームを兼ねており、メンタルヘルスに関する教育及び相談も実施している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：現代文化学部</p> <p>ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cla/">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cla/</a></p>
<p>公表方法：看護学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紀要（目次は大学ホームページにて公表。紙媒体は大学図書館へ文献複写依頼の申請が必要。<a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/gar/lib/bulletin.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/gar/lib/bulletin.html</a>）</li> <li>・ ホームページ <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep07/n/20181128.html">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/dep07/n/20181128.html</a> <a href="http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cla/KangoCenter/">http://www.t-junshin.ac.jp/univ/cla/KangoCenter/</a></li> </ul>